

もみじ台

# まちづくり通信

令和4年  
5月発行

発行：もみじ台まちづくり会議事務局（もみじ台まちづくりセンター内）



もみじ台のまちづくりが大きな一歩！



## 札幌市が「(仮称)もみじ台地域まちづくり指針」検討委員会を設置

もみじ台まちづくり会議では、これまで、札幌市に対して都市計画の見直しを要望して実現するなど、もみじ台地域の活性化に向けた取組みを進めております。

また、札幌市においては現在、新たな長期総合計画となる「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の改定に取り組んでおります。

札幌市の新たな将来像が示されるなか、もみじ台地域の将来的な方向性についても、市が「(仮称)もみじ台地域まちづくり指針」を策定して示すことになりました。

策定の第一歩として、「(仮称)もみじ台まちづくり指針」検討委員会が組織され、3月28日に第一回委員会が開かれました。

委員会では、各委員が自己紹介し、もみじ台への思いなどを述べ、札幌市地域計画課からは、まちづくり会議で取り組んでいる「もみじ台まちづくりビジョン」も踏まえながら検討していきたいとの意向が示されました。

指針は、委員会を合計4回程度開催し、住民意見を収集するなどにより、令和5年度に策定する予定になっています。

指針の策定により、もみじ台の再整備に向けた札幌市の取組みが本格的に始まることとなります。もみじ台のまちづくりは、大きな一歩を踏み出しました。

### 「(仮称)もみじ台地域まちづくり指針」検討委員会 委員名簿

鈴木克典 北星学園大学経済学部経営情報学科教授（委員長）  
新田雅子 札幌学院大学人文学部人間科学科准教授（副委員長）  
小高 咲 株式会社北海道二十一世紀総合研究所取締役副社長  
庄田健助 株式会社Localize代表取締役  
野地秀一 株式会社ホクノー代表取締役社長  
杉下圭史 札幌もみじ台西郵便局局長  
朝倉由紀子 SOC株式会社代表取締役社長  
東健二郎 もみじ台自治連合会会長  
高澤英治 もみじ台まちづくり会議副議長  
二峰 章 あつべつ区民協議会委員  
須貝淑郎 もみじ台市営住宅連絡協議会会長

## もみじ台まちづくりビジョンのワークショップ開催

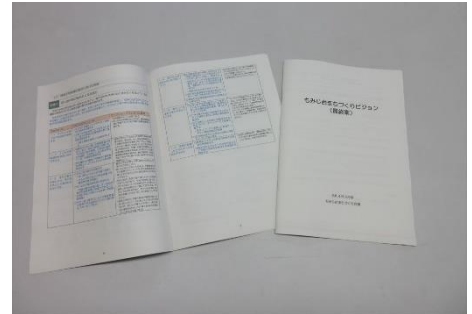
もみじ台まちづくり会議では、平成 30 年にワーキンググループを立ち上げて、これからのまちづくり活動の進め方について検討を進めてまいりました。新型コロナの感染拡大のために集まることができない時期が長く苦労しましたが、3月22日にワークショップを開催し、最終案について話し合うことができました。もみじ台まちづくりビジョンでは、3つの基本目標を掲げています。

目標1 若い世代等が住みたくなるまち

目標2 にぎわいにあふれ学びが充実しているまち

目標3 安心して住み続けられるまち

今後は、7月頃に開催を予定しているもみじ台まちづくり会議総会に最終案を諮ります。その後、市が策定を進める「(仮称)もみじ台地域まちづくり指針」や次期長期総合計画にも反映されるように、取り組んでいきたいと考えています。



## 室蘭市白鳥台団地の住民との意見交換会を開催

昨年 11 月にもみじ台まちづくり会議 WG のメンバーを中心に総勢 18 人で、室蘭市の白鳥台団地を訪問し、白鳥台連合町内会の役員と団地を取り巻く状況について意見交換をしました。

室蘭市の北西部にある白鳥台団地は、高度成長期の人口増加に対応するために、昭和 42 年に開発が始まり、最盛期には 1 万 3 千人以上が暮らしていましたが、製鉄業や関連産業の不振、縮小により、約 7 千人まで減少しており、たいへん厳しい状況におかれています。基幹産業が停滞している室蘭市白鳥台と札幌市のベッドタウンであるもみじ台の状況は異なりますが、団地が開発されるまでの経緯が共通しており、参考にすべきことがたくさんありました。以下に意見交換の内容を紹介します。

### 白鳥台団地役員の意見

- ① 団地の中心部にあったスーパーの撤退により、スーパーがない状況が半年間続き、東室蘭まで買い出しに行かなければならなかったため、とても苦労した。現在は小さいスーパーが営業しているが、人口減少が続くなか、このまま存続していけるのか不安に感じている。
- ② 高齢化が進み地域内、地域外の移動が厳しくなっている。市がタクシーを利用した新たな交通サービスを検討しているが、採算が取れる継続的な制度をつくれるのか心配。
- ③ 地域内に市営住宅は 300 戸ほどあるが交流はほとんどしていない。また、白鳥台町内会連合会にも加入していないので、地域の一体感がない。



### 参加者の感想

- ① ほかの団地の実情を知ることができ勉強になった。今後も機会を作って実施してもらいたい。
- ② もみじ台が白鳥台のように衰退していかないために、今後もまちづくりに関心を持っていたい。